

A 語句と読み

(1) 「あなた」(二人称)。狐が虎に向かって言っている /★
取り違えが多い

(2) 逃げる /×「走る」。古典の「走」は多く「逃げる」

(3) かしらである。統率者である

(4) したがひて／ついて行って

(5) そのとおりだ

(6) ために／～のために /「吾子の為に先行せん」

B 句法

(7) 禁止(決して～してはならない) /「敢へて～こと無かれ」

(8) 使役 /「(人)をして～しむ」

(9) 「AをもってBとなす」/AをBだと思う

(10) 反語(どうして逃げないでいられようか、いや必ず逃げる) /「敢へて～ざらんや」

C 何を・誰を指すか

(11) いま虎が狐を食べるということ

(12) 虎自身

(13) 狐

D 口語訳

(14) あなたは決して私を食べてはならない。

(15) 天帝が私をあらゆる獣のかしらにならせたのだ。

(16) (獣たちが) 逃げないでいられようか、いや、必ず逃げる。

(17) (虎は) 狐をおそれているのだと思ったのである。

E 内容・記述（解答例）

(18) 獣を食べていた虎が狐をつかまえた場面。(十八字)

(19) 自分は天帝から百獣のかしらに任命されている、という狐の言い分。(三十字)

(20) 狐ではなく、そのうしろにいた虎をおそれて逃げた。

(21) 獣たちは自分ではなく狐をおそれて逃げたのだと思い込んだ。(二十七字)

(22) 自分は天帝に任命された百獣の長だから、食べれば天帝にそむくことになる。疑うなら先を歩くから見ている、という筋道。実際は虎の力を利用しているだけ。

F 故事・文学史

(23) 『戦国策』（楚策）

(24) 虎＝本当に力のある者／狐＝力がないのに、その権威をかさに着て威張る者

(25) 自分には実力がないのに、力のある者の権勢をかさに着て威張ることのたとえ。

【現代語訳（全文）】

虎はあらゆる獣を探し求めては食べていたが、あるとき狐をつかまえた。狐が言うには、「あなたは決して私を食べてはいけません。天帝は私をあらゆる獣のかしらにならせたのだ。いまあなたが私を食べれば、それは天帝の命令にそむくことになる。もしあなたが私をうそつきだと思うなら、私はあなたのために先に行こう。あなたは私について後ろから見ていなさい。あらゆる獣が私を見て、逃げないでいられようか、いや、必ず逃げる。」と。

虎はそのとおりだと思い、そこでとうとう狐といっしょに行った。獣たちはこれを見て皆逃げた。虎は、獣たちが自分をおそれて逃げたのだということが分からず、狐をおそれているのだと思ったのである。